地元の歴史を調べる
＝路傍の石碑から＝

〇仕事がら、地域の高齢者の方々と話す機会が多かった。

（戦争は最大の体験であった。）

〇それで以下のようなことを考えるようになりました。

・なぜ第二次世界大戦になったのか？

・大正時代、明治時代の人々の生活は？

・明治維新の混乱と江戸時代の仙台の様子は？

加藤純二、指導：佐伯昭夫、高倉淳（10/11/21）

参考資料：『宮城野の枝折』大正３年、鈴木省三著、永野栄助発行
『地元学講座報告書』平成７年度、宮城野区役所発行

汽車ポッポ公園（南宮城野公園）

鈴虫壇の碑

鈴　虫　壇

～宮城野に鈴虫壇というところあり～

"その昔　すずむしの響きに
つつまれていた宮城野
その音色で秋を感じた古の
風流人たち"

伊達藩時代、仙台城から姫君達が訪れ、緋毛氈を敷き紫のまん幕を張り、野がけ弁当に舌つづみをうち、すずむしの音を聞きながら野点のお茶を楽しんだという。

その場所を、人は「鈴虫壇」と言い、そこまでの道を「鈴虫道」あるいは「お姫様街道」と呼んでいました。

仙台市博物館所蔵
「奥州仙台名所尽集」より宮城野鈴虫

新しい杜の都づくり宮城野区協議会
すずむしの里づくり実行委員会　1997年11月

鈴虫壇のあった場所は？

昭和11年「東郊史跡巡り」(『仙台郷土研究』)に記されている鈴虫壇

「……主人は太田氏、聞いたままと断って謙遜に話を運ぶ。そのお姫様が秋の清遊をなさる。鈴虫もよし、萩見もよし、その足場が大杉林中の土壇なのである。」

続いて井上氏、「お姫様はお駕籠、第一流老女は駕籠をぐるりと取り囲む、第二流、第三流と遠い距離に幾群（いくむれ）もつながる、その群尽きて男の群。……女とあっても警護の任、九寸五分（懐剣）を胸にした、手裏を、長刀を物々しく準備した……行列はさすがに整然、又、平日の練習もあって、歩調は敏速……通路の警護は厳重……」

仙台市指定文化財
旧伊達邸（鍾景閣）
仙台市保存樹木
鍾景の松
この先
信号左折

仙台市指定有形文化財
旧伊達邸
昭和五十八年十二月一日指定
旧伊達邸は、明治三十年代後半、元仙台藩者座伊具丸森二千石の佐々氏の下屋敷を伊達家が買収し、第十五代当主邦宗が邸宅として、仙台市一本杉に建造したものである。
旧大名層の屋敷の系譜を有する明治時代の華族邸宅の典型で、意匠的にも優れた建造物である。また、内向きの建造物でも配した、華族の生活資料としての位置も高い。

仙台市指定有形文化財

旧伊達邸

昭和五十八年十二月一日指定

旧伊達邸は、明治三十年代後半、元仙台藩着座伊具丸森二千石の佐々氏の下屋敷を伊達家が買収し、第十五代当主邦宗が邸宅として、仙台市一本杉に建造したものである。

旧大名層の屋敷の系譜を有する明治時代の華族邸宅の典型で、意匠的にも優れた建造物である。また、内向きの諸施設をも配した。華族の生活資料としての位置も高い。

仙台市教育委員会

旧伊達邸は、昭和五十五年聖ウルスラ学院から仙台市が寄附を受け、昭和六十年十月、現在地に復原したものです。

この旧伊達邸は、邸宅に保存されていた第五代藩主吉村公の扁額に由来し、「鍾景閣」と命名されました。

有形文化財指定以来、仙台市の管理にありましたが、平成十九年四月、仙台市から株式会社金魂が借り受け、市民の皆様の利用に供し、あわせて文化財の保存と継承に努めるものです。

株式会社　金魂

二枚橋・萩野町

萩 公 園
空缶、空ビン、ゴミ等を
捨てないで下さい。
萩野町 町内会

七郷堀・萩公園の萩（草萩）

萩・西公園の南端

萩　　植物　　利用

- ハギは豆科の植物で、根粒菌をもち樹勢はきわめて強く、治山用や飼料、緑肥などに適している。
- 飼料、箒、垣根・天井材、萩茶、炭、筆軸、鼓の胴・弓（自生＝木萩）
- 観賞用（園芸用＝草萩）

『奥州仙台名所尽集』萩を楽しむ人びとのようす　仙台市博物館蔵

←萩を楽しむ人々

＜高倉淳先生＞

この萩は、宮城野萩？

自生していた（木）萩？

木萩の幹・瑞巌寺

木萩・東北工大グラウンド

仙台市博物館の白萩

永野さん宅の萩

『宮城野の枝折』黄葉村荘主人（＝永野栄助翁）

■銀杏姥神

聖武天皇・・国分寺を建らるるに際し光明皇后奥州宮城郡木の下に御下向ありしが、その折、供奉の女官に紅白女・・尼となりて・・・皇后の守護尊たる正観世音の像を賜り・・・共に供奉せる白紅女・・今上天皇の御乳母となり、今は年八十を越えたれば、・・・死になば必ず塚の上に銀杏樹を植え、しるしと・・・木の下八丁ばかりを隔てたる所に・・・

■南目城址

黄葉村荘東六，七丁にあり。東西百間南北七十間古墨高二丈ばかりあり。喜多目氏の居城にして慶長年間まで・・・居住せしが、其の子孫は断絶せしという。

■新屋敷

尼寺の北にして原の町に属する二十五、六戸の部落なり。この地は天明年間の饑饉にて荒廃せしを仙台藩士戸津利源太といえる人これを開発して新たに農民を移し、一つの部落となりたるなり・・・

宮城野八幡神社

由緒不明。北畠顕家（陸奥の国司兼鎮守府将軍）が多賀城を発ち、この神社に弓一張、矢二筋を奉納。昭和20年、戦災に遭い、現在地へ。

苦竹の銀杏、乳銀杏（樹齢千年）
←（銀杏）姥神社

姥神社（宮千代一丁目、もと白萩町にあった。由緒不明。）

七郷堀（孫兵衛堀）

愛宕堰（愛宕橋から下流を見る）

日露戦役碑・河内（禮蔵）中佐書

薬師堂橋の下をくぐって
約30メートル下流、右手の堀端

右側面:「明治三八年八月下旬」

左側面:「補充大隊建之」

『聯隊史』の巻末に連隊歌が載っており、その第三番に、「三月一日紅土嶺　防御厳しき嶮要を　奮戦遂に攻略し再び感状得たりしが　河内中佐は負傷せり　逃るヽ敵を遁さじと　追撃昼夜を重ねつヽ･･･」

七郷堀・御仮屋跡・戦役碑の看板

一人千円づつの寄付により、平成16年10月に設置。作製は「仙台写真工房」、発起人は星川勇、高倉淳、佐伯昭夫、加藤純二

御仮屋（跡）：狩場で、領主の休憩・寝泊まりする別荘。

「歴史民俗資料館」（戦前の陸軍第二師団の兵舎 ）

躑躅ヶ岡と宮城野原は明治６年、陸軍操練場となった。

躑躅（つつじ）＝家畜がツツジの葉を食べるとよろける。

石榴（ざくろ）＝中に小さな実がつまっている。

榴弾砲（りゅうだんほう）

榴が岡の読みは「ザクロが岡」

ツツジが岡は「躑躅が岡」が正しい

榴弾砲（人馬殺傷弾）：児玉源太郎（満州軍総参謀長）は旅順要塞の二〇三高地を4時間足らずで陥落させた。この時、軍艦からはずした榴弾砲を用いた。日露戦争は日本の辛勝であったことを知っていた。児玉はのちに台湾総督になり、台湾人との融和政策を実行したが、若くして死亡。

宮千代児童公園（宮千代という町名は昭和46年8月から）

「宮千代の墓」尼寺の北二、三丁、新屋敷の裏にあり、稚児の墓ともいう。この稚児は松島にて見佛上人に仕えたるが歌道に志篤かりければ、京都に上りその道を聞かばやと思い・・・馬より落ち、そのままに死したりけるを里人ここに葬りしに・・・(『宮城野の枝折』)

↓明治二十六年

「宮千代の墓」の裏面

太田：
飯田：
大崎：
斎藤：
渡邉：
高橋：
新屋敷中

物事が起こる→伝承される

→脚色されたり、創作される

＜本当は何だったのか？＞

↓戸津利源太藤原高弘の墓

仙台藩の総人口

1742年　81.8 万人

1786年　59.6 万人

家中、郡方　26-29 %減

町方　43 %減

（『仙台藩と饑饉』菊池勇夫著、平成20年）

天明４年(1784)：餓死の年（前年末から領内で14-15万人の死者）

文化７年(1810)～再開発、嘉永６年(1853)：建碑 ⇒ 天保の飢饉のあと

天明(1781-1789)と天保(1830-1844)

・天明２年(1782)、春以降に洪水、西国の大凶作
　３年７月、浅間山の噴火（８月２-５日、大噴火）
　４年、諸国大飢饉
　-７年、諸国凶作、饑饉
・寛政５年（1793)、大豊作

・天保５年(1834)、全国饑饉
　６年、仙台大地震
　７年（丙申）、全国饑饉、奥羽の死者１０万人？
　８年２月、大阪町奉行所元与力・大塩平八郎の乱
　　春、餓死者多数
●天保１３年異国船打払令 → 薪水食料給与令

徳泉寺と願行寺

藩の対策；祈祷→酒造制限、他領米の買い付け→・・・救米→施粥

徳泉寺のくさむら塚

天保七年の凶作では、仙台藩では三十万人の餓死者がでた。徳泉寺と金勝寺では粥小屋を設けて、集まった流民に与えたものの、死者は両方の寺で２７００人に及んだ。

願行寺のくさむら塚（今はない）

回向寺：常念寺（東九番丁）、万日堂（北六番丁）

天明の飢饉以後、城下三寺一年交替で行った。十里、二十里の遠方からも乞食、非人、物貰い、遊民夥し・・・

（天保の飢饉では）寺々に掘った大きな穴も三月には皆埋まり、今では死体を寺の墓地に投げ捨てたまま・・・

金勝寺のくさむら塚

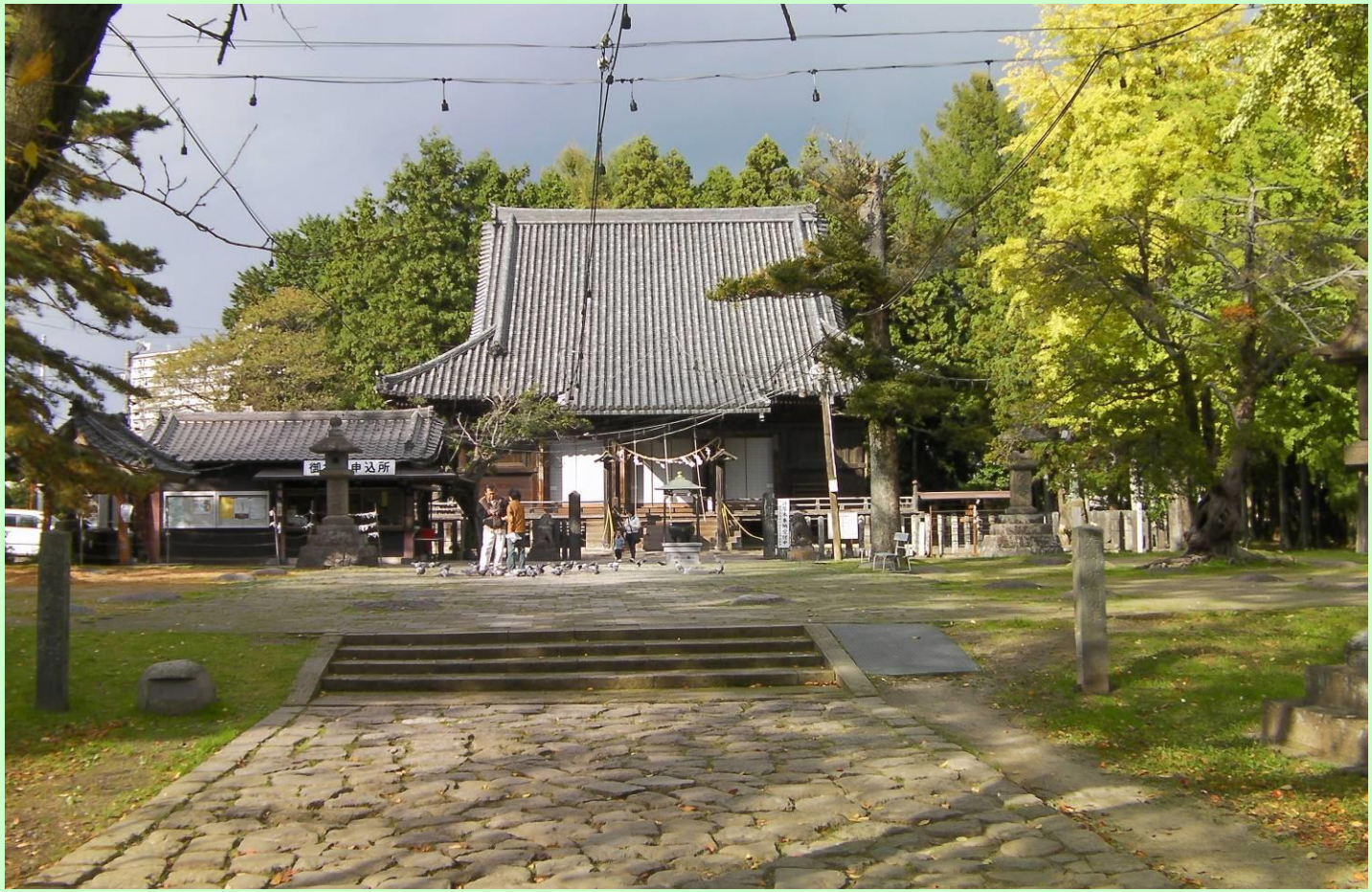
金勝寺にはお上が去年十二月四日からお粥を施した御助小屋が建ち、…一月、二月には三千人も居たが…一斗焚きの大釜を数個しつらえ…地べたに座った難民が捧げるように差し出すお椀に、手桶から…（『奥州饑渇事控』より）

遺物は道路造りで移動され、時に消滅する。

東秀院のくさむら塚

平成５年は大凶作。稲作の作況指数は全国平均が７４。岩手が３０、宮城が３７など東北地方は軒並み５０を割った。→饑饉にはならなかった。

陸奥国分寺(七堂伽藍三百坊）→1189年８月焼失



右手＝白山神社（陸奥国分寺より古い）。左手＝准胝観音堂

明治１５年の仙台におけるコレラの流行

- 大正１４年発行の『仙台昔話　電狸翁（でんたぬおう）夜話』の「コレラ病流行の惨状」。この本は伊藤清治郎という実業家が口述。
- 明治１５年7月１９日、最初の患者が亘理郡荒浜に発生した。２１日には仙台でも患者が発生した。市内の多くの商店は店を閉め、市民はみな戦々恐々としていたが、８月３日ころから、各町至る所に患者が発生した。当局の対策は、患者発生の家々に黄色の紙に「コレラあり」と書いて張り紙をして、交通遮断を行った。至る所交通遮断となり、通行人は途絶し、市内は火が消えたような光景だった。
- 台の原に避病院、北山に死体焼き場を設けたが、患者と死者が日一日と多くなり、河原町の桃源院うらと、**木ノ下薬師堂**のそれぞれに避病院と焼き場を設けた。この時、医師もコレラ患者に接することが初めてだったため、熱と下痢が始まるとすぐコレラとして避病院に送ったため、そこで本当のコレラに罹って死亡した人もあったらしい。担架がなくて避病院へ運ばれるのが遅れ、一日家で寝ていたら治った人もいた。
- 木ノ下薬師道では付近住民が、「避病院の取り払いを要請しても当局は取り上げないだろう」と、放火して病院を焼いてしまった。
- 流行は約４０日続き、９月６日には全く終了した。この間、患者は９２０人、死者は４１０人、死亡率は約４５％である。

水の森・コレラ供養碑

陸奥国分尼寺・金堂跡（単層、寺域：約1町歩＝100アール）

聖武天皇 国分寺国分尼寺建立の詔（訳文）
朕、薄徳を以て忝く重任を承け、未だ政化を弘めず、寤寐多く慚ず、古の明
に、人楽しみ、災を除き、福至る、何の政化を修めてか、能くこの道に臻らん
りに致る、懇懼ともごも集まりて、唯労して己を罪す。これを以て広く蒼生の
せて、天下の神宮を増飾す。去歳普く天下をして、釈迦牟尼仏尊像高さ一丈六
部を写さしむ。今春より已来、秋稼に至るまで、風雨序に順って、五穀豊穣な
ごと、霊祇答うるが如し。載ち惶れ、載ち懼じて、以て自ら寧んずることなし、
読誦、恭敬供養して、この経を流通する王あらば、我等四王、常に来って擁護し

古の明主は、みんな先業を能くして、国泰か
に臻らんや。この頃、年穀豊かならず、疫癘頻
く蒼生の為に遍く景福を求む。故に前年駅を馳
さ一丈六尺各一舗を造り、並に大般若経各一
穀豊穣なり。これすなわち誠を徴し、願を答え
ことなし、経に案ずるに云く、若し国土に講宣
って擁護し、一切の災障みな消殄せしめ、憂愁

尼寺の東北端の発掘現場・平成21年

法領塚古墳

「聖ウルスラ学院」敷地内。第2次発掘調査で、これまで直径32メートルとされてきた円墳が直径50メートル以上だったことが分かった。古墳時代終末期（6世紀末～7世紀ごろ）の円墳としては東北地方最大規模。同学院の新校舎建設を前に、今年10月12日から1カ月間の調査が行われており（1）上段と下段からなる2段築成、（2）石室前方に長い前庭部を持つ構造と判明。市文化財課は「仙台平野の豪族だろう」としている。

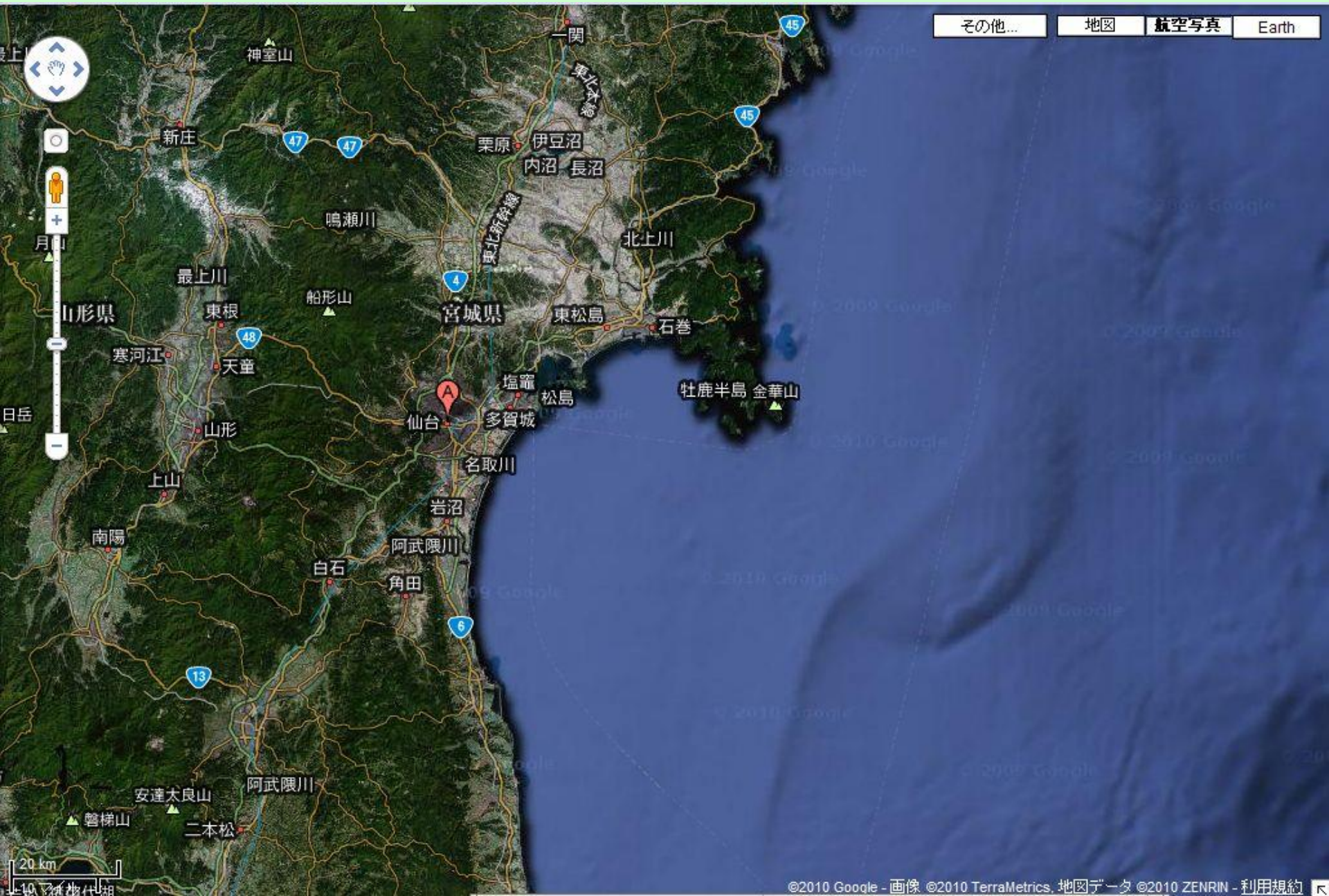
孝勝寺境内古墳（仙台駅東口から660メートル）

本堂左の稲荷神社が古墳。寺の本堂脇だったため、残った発掘調査は行われていない。古墳時代の後期と推定されている。

広瀬川と名取川をはさんで南方10キロに雷神山古墳がある。二つの大型古墳の関係は、遠見塚古墳の首長は仙台平野を支配し、雷神山古墳の首長はその後を受けてさらに広い範囲を支配したと考えられている。（4世紀末から5世紀初め）

古代の巨大建造物はよく世界遺産に指定されたりする。それは穀物生産が始まって、貧富の格差が生まれ、さらに奴隷（制度）が出来たことを示唆している。

後期旧石器時代（約２万年前）には、仙台湾の海水面は現在より約１００メートル低く、海岸線は４５キロメートル沖合にあった。



縄文時代→弥生時代→古墳時代

■旧石器時代は今から1万2千年前まで。

■約8千～3千年前の縄文時代に気候の温暖化→海水面の上昇、海岸線は現在よりはるか北西にあり、約5千年前を境に内陸に入り込んでいた海は退き始め、現在の海岸線に近づいた。

■紀元前3世紀、弥生時代になると、名取平野が生成され、農耕生活に移行した。

■古墳時代は3世紀後半～4世紀初以降。

■飛鳥時代6世紀末～

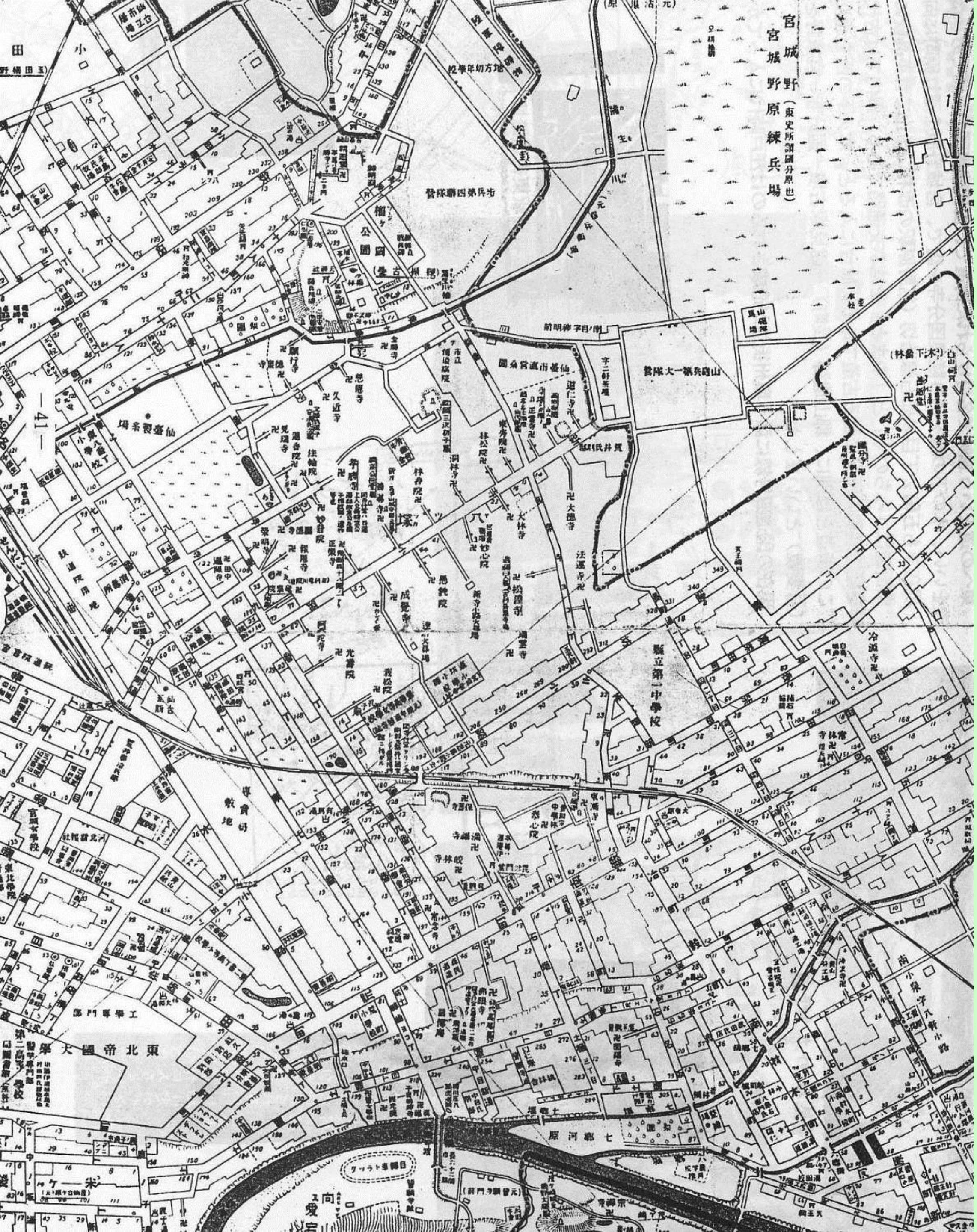
■多賀城 724年～、陸奥国分寺 741年創建。

・「志波遺跡」という奈良・平安時代の集落跡が宮千代二丁目にあった。土師器、布目瓦が出土。文献なし。

真山青果文学碑

「業績たたえて建立　仙台　真山青果の文学碑」

「羽虫は何故かは知らんだろう　それでも飛ばずにゐられないのだよ」仙台出身の劇作家真山青果の業績をたたえる文学碑が、仙台市養種園内に建てられ、その除幕式が生誕日に当たる一日、娘の真山美保さん（新制作座代表）を招いて行われた。真山青果は明治十一年九月一日、仙台に生まれた。小説「南小泉村」で文壇にデビューしたあと自然主義文学の先駆者として活躍、昭和二十三年三月二十五日、七十一歳で死去した。作品には「第一人者」「生まれざりしなら」や「平将門」「元禄忠臣蔵」など綿密な歴史資料に基づいた情熱的な戯曲が多い。ことしがちょうど没後二十五年にあたり、「真山青果文学碑を建てる会」（代表・一力河北新報社社長）が文学碑の建立を進めていた。碑は茨城県稲田産の白い自然石。「真山青果」の自筆と戯曲「頼山陽」から引用した一節を彫り込んだ黒みかげ石をはめ込んだ。高さ一・六メートル、幅二・八メートル、奥行き一・一メートルの大きさ。碑の裏面には真山青果の業績もきざみ込まれている。除幕式は一日午後二時から養種園内で行われ、真山美保さんや知事代理の羽田企画部長、島野仙台市長、津軽県教育長、石井宮城学院女子大学長ら約百人が出席した。「文学碑を建てる会」の一力代表が「数少ない日本的文豪の碑が、出世作“南小泉村”にちなんだ場所にようやく建った。養種園を散策に訪れる市民に遺徳をしのんでもらい、仙台の新しい文学名所にしたい」とあいさつ、島野市長に文学碑の目録を寄贈した。新制作座員のコーラスが響く中で真山美保さんが除幕、同座員によって碑文が朗読された。そのあと、真山美保さんは「父青果は死後二十五年目にふるさとの地に戻ってきました。いつまでも愛して下さい」と謝辞を述べた。除幕式のあと、仙台ホテルで祝賀パーティーが開かれ、美保さんらを囲んで、青果の業績をしのんだ。　**河北新報　昭和四十八年九月二日**



大正元年の地図

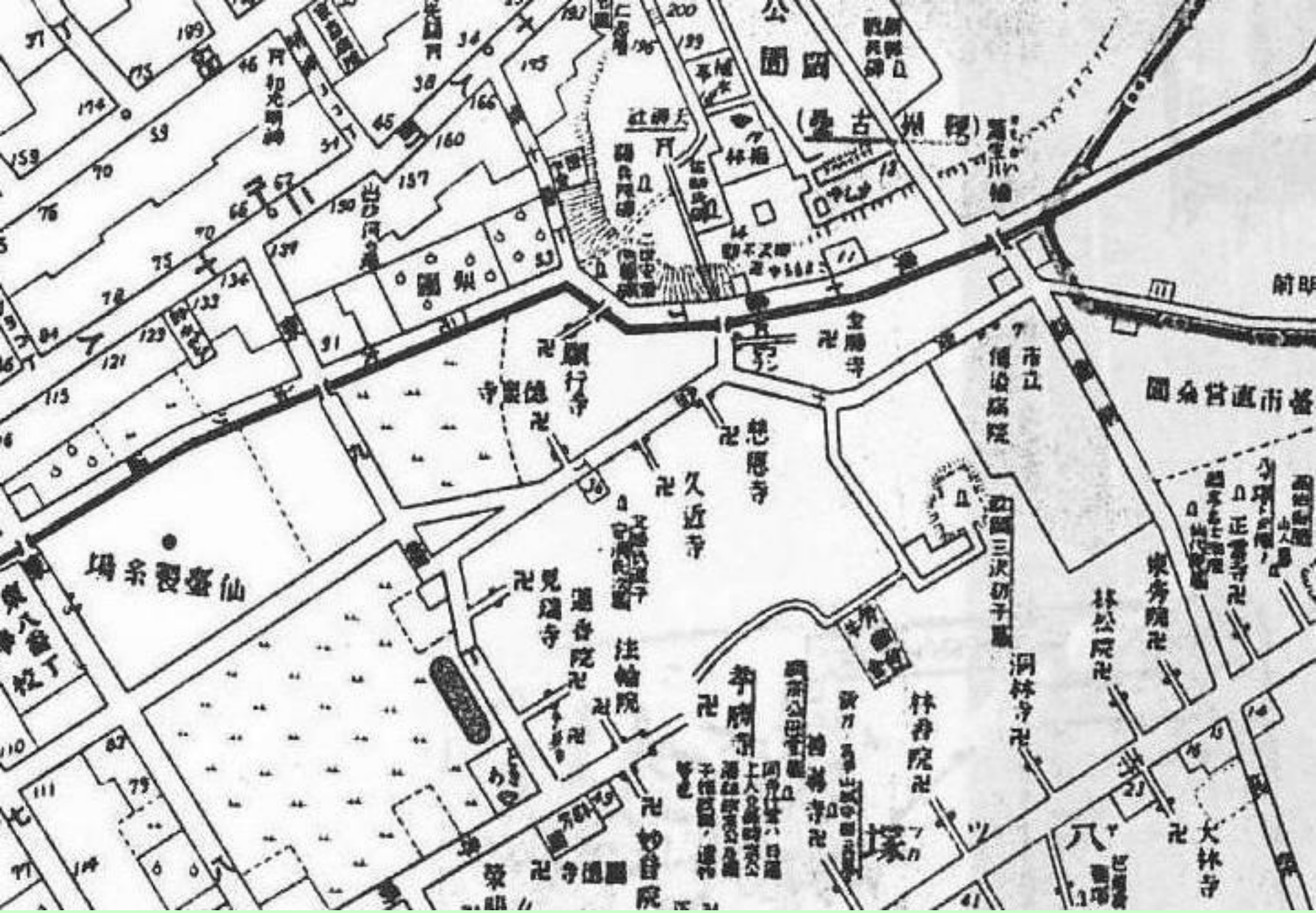
宮城野八幡神社

山砲隊・馬場

（騎兵捜索隊、大正14年～）

伝染病院

遍照寺（もと二女高）



金勝寺の位置、仙台製糸場、悪水堀

聚勝園（桜田家の書画）→原町の庄司家（甘柿舎）→仙台市博物館

聚勝園跡の碑（姥神社向かいのマンション）